

道路愛称プロジェクト 提案書

守谷市自治会連絡協議会

1. はじめに

当協議会は、区長及び区から選出された者で構成され、住みよいまちを形成し維持することを目的に、地区活動をはじめ、会員相互の情報交換や研究会等の開催、住み良い街づくりのための調査研究等を行っております。

そのような中、平成30年度は、「道路の愛称設定」について情報交換・協議を実施してまいりました。

今般、その協議内容を取りまとめた提案書を作成いたしましたので、事業プロジェクトとして提案させていただきます。

本提案書を、今後の市政運営の一助としていただければと思います。

2. 当提案書の扱いについて

当プロジェクトは、「市内の場所を相手に伝える時に、名前がよく知られている道路が少ないこともあり、場所を伝えづらい。」「よく知られている道路は国道294号とふれあい道路くらいしかないのでは?」「公称（市道〇〇線や都市計画道路〇〇号線）は覚えづらいうえ、認知度も低いと思う。」といった委員からの意見をきっかけに協議を開始したものです。道路に愛称を設定することで、場所の特定が容易になることや、行く行くは愛称がついた道路に愛着ができればと期待しております。

道路愛称プロジェクト提案書

1. 提案概要

市民提案により、市内の主要道路に愛称を設定します。

2. 目的

市内にある主要道路で、一般市民の方にとって名前と場所が一致しやすい有名な道路（通り）は、「国道294号」と「常総ふれあい道路」くらいであり、その他道路は名前の認知度が低い状況にあります。

市道に設定されている「市道〇〇〇号線」という正式名称はもとより、新しく開通した「郷州沼崎線」や、イオンタウン守谷に隣接し、交通量が多い「坂町清水線」と言った幹線道路でさえ、名称が市民権を得ているとは言えない状況です。

主要道路に愛称を設定することは、道案内など場所の特定が容易になるだけでなく、当該道路に愛着が湧き、親しみが出ることが期待できると考えます。

実際に、「常総ふれあい道路」は、昭和63年に愛称を市民等からの募集により設定しましたが、今では守谷市民だけでなく常総広域圏で見ても、多くの方に認知され、親しまれる道路となりました。

以上のことから、市内主要道路に対し愛称を募集・設定し、「地域と結びついた親しまれる道路」を目指すことを目的とします。

3. 実施内容

- ① 市民からの募集により市内道路に愛称を設定する。
- ② 設定した愛称を看板に掲示・設置する。
- ③ 市役所関連で発行している地図に名称を掲載する

4. 実施内容の詳細

- ① 市民からの募集により市内道路に愛称を設定する。

【詳細】

「目的」にもあるように、愛称の設定により「地域と結びついた親しまれる道路」を目指しており、当該道路をはじめ、包含する地域への愛着・親しみの創出も期待できることから、企業に対し協賛を求める（ネーミングライツの活用）ものではなく、公募により愛称設定を行います。

他市の事例としては、「市制〇周年記念事業」や、「路線開通記念」、「地域おこし」等で実施されていることが多くあります。前段でも少しふれましたが、「常総ふれあい道路」は開通記念として愛称を募集しております。なお、守谷市は2022年に市制施行20周年を迎え、市制施行記念事業としては丁度良いタイミングだと考えます。

② 設定した愛称を看板に掲示・設置する。

【詳細】

愛称を設定しても認知されなければ意味がありませんので、当該道路に看板を設置し、愛称を認知してもらいます。看板を設置することで認知が高まるだけでなく、場所の特定も容易になると思われれます。

なお、手法の一つとして、「愛称設定」→「道路里親制度」→「地域の愛着」→「地域での管理」ということも、将来的には考えられるかもしれません。

③ 市役所関連で発行している地図に名称を掲載する。

【詳細】

現在の守谷市ガイドマップには、ふれあい道路の名称が記載されております。ガイドマップをはじめ、市役所関連で発行している各種地図へも記載していただければと考えます。愛称の認知度が高まれば、市役所関連で発行している以外の地図（ゼンリン地図等）にも記載されることも考えられます。

なお、市役所関連で発行している地図への記載は、当該地図の更新時期に併せて実施することが望ましいと考えます。

5. その他追記事項

①愛称設定区間の方針について

当協議会での協議において、特に議論がなされた点として、「延長が長い路線の考え方」がありました。

「坂町清水線」のような延長が長い路線の場合、1本の道路として愛称を設定する「広域的な設定」と、地域ごとに区切って愛称を設定する「狭域的な設定」が考えられます。どちらの設定でもメリット・デメリットは考えられますので、募集路線を設定する前段階で、方針を固めておく必要があると思われれます。

②ネーミングライツについて

実施内容の詳細で述べましたが、このプロジェクトはネーミングライツの活用を推奨しているものではありませんが、市の考え方として、財源確保等の観点からネーミングライツの活用も検討される場合は、それを否定するものではありません。

③おせっかいプロジェクトとの連携について

現在、市で実施している「守谷おせっかいプロジェクト」に絡めて実施することができれば、より一層効果が見込めるのではないかと考えます。

以上。